

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471200137	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 麗寿会		
事業所名	ふれあいの家 こすもす		
所在地	(253-0105) 神奈川県高座郡寒川町岡田7-3-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	17 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成29年1月6日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月1日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

[ゆっくり・一緒に・楽しみながら] を事業所の理念に置き、また法人の理念と合わせ入居者にとって、こすもすでの生活がより良いものになるよう、職員はしっかりと入居者に寄り添うことで入居者の声に耳を傾けるよう努めています。できる事はご自分で行って頂き、出来るだけ現在の生活を続けられよう、自立支援に基づくケアについて検討を行い、実践につなげられるように努めています。住み慣れた地域で暮らし地域に出向くことで馴染みの風景、知人との再会ができるような取り組みにも力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年2月11日	評価機関 評価決定日	平成29年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR相模線「寒川駅」から徒歩約20分、バス通りから路地に入った住宅と畑、駐車場が混在するエリアにある3階建てビルの1・2階を利用しています。母体の社会福祉法人は茅ヶ崎・寒川地域で特別養護老人ホーム、デイサービスなどの福祉事業を展開しています。

<優れている点>

管理者は、同一敷地内のデイサービスの管理者も兼務し、3階の子育て支援センターとも連携を取りながら運営しています。理念は「ゆっくり・一緒に・楽しみながら」とし、認知症になっても「その人らしく」安心して楽しく暮らせるよう、レクリエーションと季節行事に力を入れています。支援する職員は有資格者が多く、手厚い介護をしています。また、入居者と楽しもうと手品や紙芝居なども習い、披露しています。デイサービスの10人乗り車両で外出し、多業種が入る商業施設で買い物をして楽しんでいます。職員への信頼は厚く、いきいきとした日々の活動に入居者の笑顔があふれています。

<工夫点>

防災訓練時の通報機器類の操作方法を業者から説明を受けています。地震・火災・停電時のエレベーター昇降の取り扱いも共有しています。初詣や花見などの外出時にはボランティアの同行を依頼しています。ケアプランに入居者の介護状況を羅列し、注意喚起しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ふれあいの家 こそす
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念とは別に「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」という事業所理念を持ちその人らしい生活の援助に努め、定例会、カンファレンス開催時に再確認し合い実践につなげています。	理念は昨年着任した現管理者が自分の思いとして引き継ぎ、毎日の活動の中で反復しています。入居者に合わせて急がずゆっくりいこう、一緒に考えよう、買い物を楽しんだりしよう、と、活動の中で、日々口ずさむ言葉となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町ぐるみの美化運動、福祉祭、どんど焼き等地域のお祭りに参加することで深く交流できるよう取り組んでいます。子育て支援センターとの交流も行い交流の幅を広げています。ボランティアの受入れも積極的に行い交流を図っています。	地域との交流は積極的で、どんど焼きでは団子を木の枝に刺して焼いたり、祭りや清掃に参加しています。地域行事では馴染みの人が声を掛けてくれ、再会を喜んでいます。ボランティアとして、元職員や元家族が参加し、盛り上げてくれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	29年2月より寒川町、地域包括支援センターとの合同による、認知症の方、家族を対象にした「仮・オレンジカフェ」の開催を試験的に行う予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を定例会にて報告し、職員全体で共有できるように取り組んでいます。	昨年12月に今年度初めての運営推進会議を開いています。久しぶりの開催で新たな委員が多く、CD画像で事業所の様子を説明し、質問についての解説が行われています。メンバーには3階の子育て支援センターにも参加してもらっています。	次の運営推進会議の日程を決めるなど、継続はしていますが、サービス向上のため、今後、定期的開催することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政担当者と連絡をとり、分からない事等については相談できるようにしています。	介護サービス事業所連絡会や介護相談員やケアマネジャーの情報交換会などの交流が行われています。介護認定関係や生活保護受給で調整や申請代行などにも取り組んでいます。地域包括支援センターは法人の事業でもあり、相談や連携をとっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進モデル施設として常に意識を持って取り組んでいます。	身体拘束の研修は昨年11月、リーダーと職員が法人の研修に参加し共有化しました。スピーチロックによる不適切なケアや、薬の投与面など多面的に取り組んでいます。各ユニットの入口ドアは施錠していますが、外出したい時は出掛けたり、他フロアを訪問したりして落ち着くようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修をはじめ学ぶ機会を持ち、定例会などに資料配布を行い周知徹底に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設外研修にて学ぶ機会を持ち、学ぶ機会を得ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所申込時に疑問点、不安なことを聞き、説明を行っています。契約時に契約書・重要事項説明書にて内容説明をし、理解して頂いた上で契約を結んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会専用の意見箱を設置し家族の意見を頂くようにしています。職員から積極的に家族へ声を掛け要望を聞くようにしています。介護相談員の受入れにて入居者ご本人の要望等も報告して頂き、共通理解に努めています。	「買い物に行きたい」「風呂は午後に入りたい」などの要望に応じています。介護相談員からの情報も得て対応しています。家族からは、職員がよく話を聞き、最善の方法を考えてくれると喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス等の場面で職員の意見を取ることや提案箱を用意し改善すべき事項があれば職員の意見を反映させるようにしています。	職員は毎月の定例会やユニット会議、個別ヒヤリングで自由に意見を出しています。職員が担当する各種の委員会でもアイデアが取り入れられています。職場は認知症介護の経験者や有資格者が豊富で、各種研修の機会も多くあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を採り入れ、職員・上司双方の意見をすり合わせを行い給与ややりがいに反映させています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人に研修センターを設置しており、全職員対象の研修会を実施しています。階層別研修や外部研修にも参加し、学ぶ機会を多く持てるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の事業所連絡協議会に参加し、各事業所との情報交流に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居希望の問い合わせのあった場合、ご本人・ご家族様に見学をして頂いています。本人の情報や希望を伺い、ケアマネージャーなどから情報も合わせて本人像の理解に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学に来て頂いたり、ご自宅に訪問させて頂き、家族の希望や、思いを伺い、サービス内容へ反映して行くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	どのように援助が必要か十分にアセスメントを行い、必要なサービスにつなげられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	普段の生活の中で利用者の意思、意欲を読み取り、暮らしを共にする形でさり気なく支援できるようにしています。又一緒に楽しく暮らせるよう楽しみも一緒に探しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族からの情報提供や思いを伺い、これまでの生活を理解した上での、援助方法について検討、実施していくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人のこれまでの交流を引き続き行えるように自由に入出入りして頂いています。	入居者の親しい友人が時々遊びに来ています。地域行事に出かけ、知人から声をかけられて再会を喜んでいます。家族の了解を得て、知人と散歩にも出掛けています。正月には絵手紙を書いて投函し、家族と帰宅したり、馴染みの場所に出掛けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個人を尊重し、皆さんで安心して生活して頂けるよう利用者同士の関係性を把握し配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も何かあればいつでも相談を受けられることをお伝えしています。サービス終了後もご家族がボランティア等に来て下さる為継続した関係の維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人からの希望、意向についてカンファレンスを行い現状も踏まえ、ご本人の意向に添った援助の共有化を図り実践しています。家族の意向もうかがうようにしています。	入居希望者は誰でも受け入れる方針で、家や病院などへ訪問したり、事業所に来たりして、本人の好き嫌いや生活歴などを入居者情報としてまとめています。さらにやりたいこと、できる事をアンケートに記入してもらい、個人情報ファイルの中で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活リズム等の情報をご本人、ご家族、ケアマネージャーから伺い集めています。集約した情報を全職員が理解できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の小さな変化を職員間で伝達や記録を残し、ご本人の「できる事」「わかること」等を整理して職員が把握できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人・家族の希望を伺い心身状況も踏まえた上で、支援方法についてカンファレンスにて検討し、介護計画に反映させています。	入居者には、出来る事や分かることはやってもらい、できないところを支援するというケアプランを作成しています。日々のケース記録をもとに、居室担当とリーダーが変化をとらえ、計画作成担当が毎月のカンファレンスでケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケース記録を基にして介護計画を見直しています。職員がケアプランの理解、実践を行うように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人内の他の事業所で行っている体操教室や行事等に参加し機能維持に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	子育て支援センター利用の子供達との交流、民生委員やボランティアの方々には訪問して頂き馴染みの関係を築いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所の際にご本人、ご家族の意向を確認して、かかりつけ医の選択をして頂いています。必要に応じて相談をしていき、ご本人にとって適切な医療につなげるようにしています。	主治医の往診、家族による外来通院や協力医療機関の訪問診療などで柔軟に対応しています。診療結果は毎月の近況報告で家族と共有しています。看護師とは連携病院のコールセンターを通じ、夜間の連携が取れる環境にあります。年2回血液検査を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携病院（在宅訪問診療）のコールセンターの活用や法人内他事業所健康管理室との連携にて健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側への情報提供及びケースワーカーとの連絡を密に行い、入院後の方向性について調整、検討に努めています。協力病院との連携により救急時の対応も迅速になるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療面、設備面における対応範囲を明らかにし、ご本人、ご家族の希望も含めて「できる限り苦痛のない楽しい時間を過ごして頂く」事の支援に努めています。ご本人にとってのより良い生活を日々検討しています。	入所時に看取りに関する事業所の対応を説明し同意を得ています。事業所での看取りの経験は少ないですが、特別養護老人ホームでの経験者や介護関連資格者の割合が高く、また系列グループの医療機関も近隣地区にあるので、対応の基盤が整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し、周知しています。業務内やカンファレンス等で周知徹底に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難経路、連絡体制の確認も行いながら、避難訓練を実施し、災害時の対応を身に付けるように努めています。備蓄品の充足を図っています。	敷地内にある3事業所合同で、消防署との通報・消火、夜間想定、通常避難の3回の訓練を行っています。訓練時には消防設備保守会社の担当から通報機器類の操作説明を受けています。地震・火災・停電時のエレベーターの昇降の取り扱いを共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの意思を尊重し、周囲への配慮も意識した言葉かけを行っています。個人情報に関しては同意書を取り、管理徹底をしています。	人生の先輩として敬う気持ちを忘れないよう心掛けています。入居者の気持ちや言葉、動きに合わせ、理念の1つ「ゆっくり」と、ケアを実践しています。信頼関係を大切にし、穏やかで安心して生活してもらえよう支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活は概ねスケジュールを組んでおり、リズムのある生活を支援しています。ただし、入居者の希望を伺いながら、臨機応変に対応できるようにしています。意思疎通のできない方についてもその方にあった対応で決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れにおいてもご本人の意思を尊重して本人のペースに合わせて生活して頂けるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類で出来る限りお好みのものを選択して頂けるように支援しています。定期的にヘアカットを実施しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の一人ひとりの「できる事」、「得意なこと」を大切にし状況を見て、食事の下ごしらえ、盛り付け、片付け等を一緒に行うようにしています。時には外食、お弁当をご自分で選び楽しんでいきます。	業者からのメニューと食材購入を行っています。近くの八百屋への買い出しにより好みの物を添えることもあります。寿司やラーメンの外食、行事のおせち、ピクニックの弁当などを楽しむ機会もあります。入居者が楽しめる食事を支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事、水分量を記録に残し状態の把握に努めています。心身状況にあわせた状態での提供や好みに適したものを用意しています。医療との連携で相談、指導を頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きの声掛けやできない方については支援を行っています。訪問歯科による口腔点検や必要に応じた治療を行っています。義歯は夜間消毒をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声かけや誘導解除を行っています。できる限りトイレでの排泄を目指しています。	時刻の入った排泄チェックシートに記録し、タイミングよく、声掛け前誘導が出来るよう支援しています。夜間にはポータブルトイレの入居者もいます。失敗した時は速やかに対応すると共に、プライバシーへの配慮を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かす時間を設けたり、水分の確実な摂取をして頂くために好みの飲み物を提供しています。又ヨーグルトや牛乳で便秘予防もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ゆっくり入って頂いています。ご本人の気分や状態によっては時間を変えたりして対応しています。	入浴は週に3日（火・木・土）が基本で、時間帯は入居者の希望に沿って行っています。1階のミニ銭湯的な浴室と2階の個浴が利用出来ます。肌の乾燥を防ぐため保湿入浴剤を使用することもあります。近隣からもらった柚子で柚子湯の機会があります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースに合わせて日中を過ごして頂くよう努め、体調も考慮して必要な方には休養を勧めています。寝具の保清にも注意しています。就寝中安心して入眠できるよう、入眠を妨害しないよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方ごとに薬カードの差替えを行い、処方薬に変更があった場合は薬の変更目的や効能等の情報伝達が確実にできるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意なことを活かし、自らの意思で快く行って頂けるよう役割ある生活を支援しています。様々なレクリエーションも行い、楽しみの有る生活を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節に合わせての計画を立て実施しています。ご家族にも参加して頂けるような企画を立てています。外気浴、散歩、買い物は適宜行い対応しています。	日常の散歩は近隣の神社や公園、八百屋への買物などを行っています。かつての入居者家族の招きで柚子をもらいに外出することもあります。ボランティアの同行を依頼し、隣接のデイサービスの中型送迎車を利用し、一緒に初詣やお花見に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の希望がある時には職員が付添わせて頂き、好みのものを購入できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	職員が取次ぎを行い、電話して頂けるようにしています。手紙などの郵便についても宛先を確認させて頂き、一緒に投函できる方は職員付添いでご本人に投函して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用スペースには季節ごとの飾りを飾り、思いでの写真をはるなど安心できる空間作りを心掛けています。共用スペースは整理整頓、清潔に努めています。	入居者が共用場所で寛げるよう廊下にはソファやテーブル・椅子を置き、いつでも自由に使えるよう配置しています。安全や感染症に配慮し、消毒はこまめに行っています。どんど焼き・まゆ玉づくり、新年祝賀会などの行事の写真を大きく掲示して、思い出を語り合えるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりがゆっくりとくつろげるようにソファを置き、思い思いに過ごせるような工夫や雰囲気作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具等を持ちこんでいただくことで安心してすごせるようにしています。本人による作品、写真等を好みに合わせて貼付けて頂きご自分らしい空間を作っています。	居室は畳敷きとフローリングの部屋があり、それぞれ押入れとタンスが備えられています。入居者はテレビ・色紙・家族の写真など好みの物を持ち込み寛げる住まいにしています。居室担当の職員は何かと相談にのっています。寝具の清潔にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置や段差の保護を行っています。場所の確認がしやすいようにし、環境整備を行うことで分かりやすく又行動しやすくしています。		

事業所名	ふれあいの家 こすもす
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念とは別に「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」という事業所理念を持ち、その人らしい生活の援助に努め、定例会、カンファレンス開催時に再確認し合い実践につなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町ぐるみの美化運動、福祉祭、どんどん焼き等地域のお祭りに参加することで深く交流出来るよう取り組んでいます。子育て支援センターとの交流も行い、交流の幅を広げています。ボランティアの受け入れも積極的に行い交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	29年2月より寒川町、地域包括支援センターとの合同による、認知症の方、家族を対象にした「仮・オレンジカフェ」の開催を試験的に行う予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を定例会にて報告し、職員全体で共有できるように取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者と連絡を取り、分からない事等については相談できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進モデル施設として常に意識を持って取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修をはじめ学ぶ機会を持ち、定例会などに資料配布を行い周知徹底に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設外研修にて学ぶ機会を持ち、学ぶ機会を得ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所申込時に疑問点、不安なことを聞き、説明を行っています。契約時に契約書・重要事項説明書にて内容説明をし、理解して頂いた上で契約を結んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会専用の意見箱を設置し家族の意見を頂くようにしています。職員から積極的に家族へ声を掛け要望を聞く様にしています。介護相談員の受け入れにて入居者ご本人の要望等も報告して頂き、共通理解に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス等の場面で職員の意見を取ることや提案箱を用意し改善すべき事項があれば職員の意見を反映させるようにしていきます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を採り入れ、職員・上司双方の意見をすり合わせを行い給与ややりがいに反映させています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人に研修センターを設置しており、全職員対象の研修会を実施しています。階層別研修や外部研修にも参加し、学ぶ機会を多く持つよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の事業所連絡協議会に参加し、各事業所との情報交流に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居希望の問い合わせのあった場合、ご本人・ご家族様に見学をして頂いています。本人の情報や希望を伺い、ケアマネージャーなどから情報も合わせて本人像の理解に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学に来て頂いたり、ご自宅に訪問させて頂き、家族の希望や、思いを伺い、サービス内容へ反映して行くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	どのように援助が必要か十分にアセスメントを行い、必要なサービスにつなげられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	普段の生活の中で利用者の意思、意欲を読み取り、暮らしを共にする形でさり気なく支援できるようにしています。又一緒に楽しく暮らせるよう楽しみも一緒に探しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族からの情報提供や思いを伺い、これまでの生活を理解した上での、援助方法について検討、実施していくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人のこれまでの交流を引き続き行えるように自由に出入りして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個人を尊重し、皆さんで安心して生活して頂けるよう利用者同士の関係性を把握し配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も何かあればいつでも相談を受けられることをお伝えしています。サービス終了後もご家族がボランティア等に来て下さる為継続した関係の維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人からの希望、意向についてカンファレンスを行い現状も踏まえ、ご本人の意向に添った援助の共有化を図り実践しています。家族の意向もうかがうようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活リズム等の情報をご本人、ご家族、ケアマネージャーから伺い集めています。集約した情報を全職員が理解できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の小さな変化を職員間で伝達や記録を残し、ご本人の「できる事」「わかること」等を整理して職員が把握できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人・家族の希望を伺い心身状況も踏まえた上で、支援方法についてカンファレンスにて検討し、介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケース記録を基にして介護計画を見直しています。職員がケアプランの理解、実践を行なうように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人内の他の事業所で行っている体操教室や行事等に参加し機能維持に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	子育て支援センター利用の子供達との交流、民生委員やボランティアの方々には訪問して頂き馴染みの関係を築いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所の際にご本人、ご家族の意向を確認して、かかりつけ医の選択をしています。必要に応じて相談をしていき、ご本人にとって適切な医療につなげるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携病院（在宅訪問診療）のコールセンターの活用や法人内他事業所健康管理室との連携にて健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側への情報提供及びケースワーカーとの連絡を密に行い、入院後の方向性について調整、検討に努めています。協力病院との連携により救急時の対応も迅速になるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療面、設備面における対応範囲を明らかにし、ご本人、ご家族の希望も含めて「出来る限り苦痛の無い楽しい時間をすごして頂く」事の支援に努めています。ご本人にとってのより良い生活を日々検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し、周知しています。業務内やカンファレンス等で周知徹底に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難経路、連絡体制の確認も行いながら、避難訓練を実施し、災害時の対応を身に付けるように努めています。備蓄品の充足を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの意思を尊重し、周囲への配慮も意識した言葉かけを行っています。個人情報に関しては同意書を取り、管理徹底をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活は概ねスケジュールを組んでおり、リズムのある生活を支援しています。ただし、入居者の希望を伺いながら、臨機応変に対応できるようにしています。意思疎通のできない方についてもその方にあった対応で決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れにおいてもご本人の意思を尊重して本人のペースに合わせて生活して頂けるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類で出来る限りお好みのものを選択して頂けるように支援しています。定期的にヘアカットを実施しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の一人ひとりの「できる事」、「得意なこと」を大切に、状況を見て、食事の下ごしらえ、盛り付け、片付け等を一緒に行うようにしています。時には外食、お弁当をご自分で選び楽しんでいきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事、水分量を記録に残し、状態の把握に努めています。心身状況に合わせた状態での提供や、好みに適したものを用意しています。医療との連携で相談、指導を頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きの声掛けや、出来ない方については支援を行っています。訪問歯科による口腔点検や必要に応じた治療を行っています。義歯は夜間消毒をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導介助を行っています。出来る限りトイレでの排泄を目指しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かす時間を設けたり、水分の確実な摂取をして頂くために好みの飲み物を提供しています。又ヨーグルトや牛乳で便秘予防もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ゆっくり入って頂いています。ご本人の気分や状態によっては時間を変えたりして対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースに合わせて日中を過ごして頂くよう努め、体調も考慮して必要な方には休養を勧めています。寝具の保清にも注意しています。就寝中安心して入眠できるよう、入眠を妨害しないよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方ごとに薬カードの差替えを行い、処方薬に変更があった場合は薬の変更目的や効能等の情報伝達が確実に行えるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意なことを活かし、自らの意思で快く行って頂けるよう役割ある生活を支援しています。様々なレクリエーションも行い、楽しみのある生活を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節に合わせての計画を立て実施しています。ご家族にも参加して頂けるような企画を立てています。外気浴、散歩、買い物は適宜行い対応しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の希望がある時には職員が付添わせて頂き、好みのものを購入できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	職員が取次ぎを行い、電話して頂けるようにしています。手紙などの郵便についても宛先を確認させて頂き、一緒に投函できる方は職員付添いでご本人に投函して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用スペースには季節ごとの飾りを飾り、思い出の写真をはるなど安心できる空間作りを心掛けています。共用スペースは整理整頓、清潔に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりがゆっくりとくつろげるようにソファを置き、思い思いに過ごせるような工夫や雰囲気作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具等を持ちこんでいただくことで安心して過ごせるようにしています。本人による作品、写真等を好みに合わせて貼付けて頂きご自分らしい空間を作っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置や段差の保護を行っています。場所の確認がしやすいようにし、環境整備を行うことでわかりやすく又行動しやすくしています。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 社会福祉法人ふれあいの家こすもす

作成日： 平成29年4月15日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を開催の日程を決めるなど継続はしているがサービス向上のため、今後定期的に開催するように。	求められている2か月に1回の開催を計画、実施して行く。	年間計画を作成し、参加者へのご案内、準備、開催がスムーズに行えるようにしてゆく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月